

■アフリカ：アフリカ-欧州を繋ぐ Transgreen コンソーシアムが発足

2010年7月5日、Transgreenプロジェクトの発足式がパリで行なわれた。このプロジェクトは北アフリカのサハラ砂漠から太陽熱による発電電力を欧州に送電するもので、フランス系企業を中心とした共同事業体である Transgreen グループにより実施される。当面、地中海を縦断する送電線が検討される。また、フランスの EDF、アレバ、スペインの REE、ドイツのシーメンスなど多くの企業がプロジェクトに参加している。計画では、2020年までに太陽熱発電設備 2,000 万 kW を運開させ、そのうち約 500 万 kW が欧州に送電される予定である。既にジブラルタル海峡に送電容量 140 万 kW の海底ケーブルが敷設され、今後新たに設置されるケーブルの増設費用は最大 80 億ユーロ（8,800 億円）と想定されている。発足式に出席したフランスのエコロジー・エネルギー・持続可能開発・海洋省のジャン＝ルイ・ボルロー大臣は、プロジェクトを通じて欧州の消費者が北アフリカでのエネルギー開発費用の低減を支援することになるとプロジェクトの重要性を強調した。